

# 東日本ユニオン よこはま

J R 東日本労働組合  
横浜地方本部  
発行者/小清水和彦

## 申第6号「駅業務執行体制の再構築(その3)」 に関する解明申し入れの団体交渉を行う!

2月14日、申第6号「駅業務執行体制の再構築(その3)」  
に関する解明申し入れの団体交渉を行ないました。

### 【共通】

1. 本施策の実施にあたり、効率的で生産性の高い業務執行体制を構築できるとした根拠を明らかにすること。  
会社回答:「駅の変革」のスピードアップに掲げる駅業務の変革に則り、駅業務体制の再構築を行うものである。  
組合:駅業務執行体制の再構築の提案自体は要員の見直し、4月からホーム1徹減、そのことが効率的で生産性が上がるという認識でよいか。  
会社:会社としてはその認識。**乗務員に車内貫通を担っていただくことで作業ダイヤを組み替えて、効率的で生産性の高い業務執行体制ができた**と思っている。
2. 車内貫通作業時、乗務員(車掌)と駅社員(警備員)の連絡体制を明らかにすること。  
会社回答:必要な教育・訓練は実施していく。  
組合:通常時や異常時についての連絡手段を改めて確認したい。駅社員や乗務員が身の危険を感じる事態になった場合はどの考えているか。  
会社:通常時であれば、連絡することは特段ない。異常時であれば、列停や車内警報ブザーを使い運転士を返して指令に連絡や業務用携帯電話で自区当直へ連絡するなどもある。また運転台に戻って、車内マイク等を使い、駅社員や警備員を呼ぶことも出来る。警備員であれば、IP無線を使用し、他の駅社員を呼ぶことも出来ると思う。危険を感じたときは、一人で対応しないというのが一番であると思う。
3. 車内貫通作業時、遺失物対応について明らかにすること。  
会社回答:必要な教育・訓練は実施していく。  
組合:取扱いについては、また警備員との車内貫通時は引き渡せるか。  
会社:通常の手続きを行う予定でいる。警備員との車内点検については、現在調整中である。
4. 車内貫通作業時、お客さまが車内に再乗車した場合の対応を明らかにすること。  
会社回答:状況に応じて対応することとなる。  
会社:**再乗車を認めた際は、気づいた人や近くにいる人が対応することになる。運転士が再乗車を認めた際は放送も行える。**
5. 必要な周知・教育は何時から実施するのか明らかにすること。  
会社回答:必要な教育・訓練は実施していく。  
会社:乗務員については、ダイヤ改正説明時の定例訓練。駅社員については2月中旬以降。ガードマンについては支社で作成した資料を基に勉強してもらう。

## 【駅関係】

1. 現在小田原駅に夜間・警備員が配置されている理由を明らかにすること。

会社回答: 駅業務実態等を総合的に勘案し決定したものである。

会社: 駅構内巡回や車内貫通作業を行い、駅業務を円滑に行えるように 19:20 から 2 名配置している。

2. 22時以降の運転整理は誰が行うのか明らかにすること。

会社回答: 状況に応じて対応することとなる。

会社: 当務副長が対応。異常時については、寝ている社員を起こして対応してもらうこともある。

3. 乗務員拾得の遺失物はどこに集約するのか明らかにすること。

会社回答: これまでと同様に取り扱うこととなる。

組合: 車内貫通作業時に遺失物を拾得した場合は、駅社員・警備員に引き渡しは可能なのか。

会社: **駅社員については、引き渡しは可能。警備員に引き渡しても良いかは調整中**となる。遺失物集約については、基本は上りホームとなるが、改札に持っていても問題はない。



## 【乗務員関係】

1. 車内貫通作業における、乗務員(車掌)の作業に伴う付加時分を明らかにすること。

会社回答: 必要な時間は確保している。

会社: 付加時間はつけていない。乗務員詰所や乗務員休憩所までの徒歩時分で車内貫通作業が対応可能であると判断した。

2. 車内貫通作業において駅社員(警備員)と合流し作業終了なのか、ドア閉扉を持って作業終了なのか明らかにすること。

会社回答: 必要な教育・訓練は実施していく。

会社: 車掌の車内貫通作業は、**駅社員(警備員)と会った時点で終了となる。その場から離れても問題はない。**

3. 警備員と車内点検を行った場合、急遽車内清掃が必要な際のアクセス社員への手配はどのように行うのか明らかにすること。

会社回答: これまでと同様に取り扱うこととなる。

組合: 車内点検時に汚物等による車内清掃を依頼する際は。

会社: 乗務員が車内清掃を依頼する場合は、**現行のように駅社員に依頼をする。または指令を介して、駅に依頼することもできる。**

4. 運転士のドア閉扉時までの取り扱いを明らかにすること。

会社回答: 必要な教育・訓練は実施していく。

会社: 駅社員(警備員)からの連絡によりドアを閉める。**運転士の乗降状態の確認については、お願いの域を超えない。乗務員区の指導にもよる。**

組合: 折返し時については。

会社: 新運転台に到着した時点で駅社員(警備員)からドア閉めの業務放送があり、その時点でドアを閉める。**駅社員(警備員)は、運転士がドアを閉めるまで、その場から離れず、ドアを閉まるまで業務放送をする。**

お客さま対応や作業への不安、

職場で起こり得る問題点解決に向け、

東日本ユニオンと共に解決していこう！